



アジアの将来担う人材養成

両国の架け橋となる若者を



山田滝雄駐ベトナム日本国特命全権大使

ベトナム・ハノイには、日本の名前が入った大学、「日越大学」があります。2014年に設立され、16年に、まず修士課程が、そして、20年には学士課程がスタートしました。現在、約300人の学生が、2つの学士課程プログラム、8つの修士課程プログラムで学んでいます。

日越大学は、日越の友好・協力の象徴として誕生しました。そして、ベトナムと日本の強みを活かし、持続可能な発展に貢献する先端技術及び学際科学の分野においてアジアで最も威信のある研究志向大学となる目標を掲げています。

しかし、日越大学は、まだ発展の途上です。多くの日本のご支援をいただいております。茨城県とのつながりでは、

筑波大学及び茨城大学から、開設当初よりご協力をいただいております。

また、現在、ベトナムに対する投資熱は引き続き高く、多くの日本企業が進出していますが、このような日本企業からも様々な形でご協力の申し出をいただいております。茨城県に本社を置く関影商事株式会社様からも奨学金やキャリアセミナーといった形でご協力をいただいております。

今後、日越大学を発展させていくにあたり、このような日本とのネットワークを大学の「強み」として最大限活かしていきたいと考えております。在ベトナム日本国大使館は、引き続き積極的に日越大学を応援していきます。引き続き、皆さまのご支援、ご協力をお願いいたします。そして、さらに多くの日本の皆さまに日越大学を知っていただきたいと考えております。

日越大学から、将来の日越の架け橋となる若者が一人でも多く出てきてくれることを願っています。

産学官連携とアジアのプラットフォーム

日越大学支援国内本部



武部勤 代表

高度成長下のベトナムは、いま世界の注目を集めている。「いまより明日が、より良く変わっていく」と誰もが感じて生きている社会に身を置き体感することは、次代の国際社会を支える若者にとって有意義な時間となるに違いない。

日越大学は、日越共同戦略プロジェクトとして両国友好議員連盟が提案し、両国首脳間の合意に基づき、2016年9月に両国の友好と結束の象徴として開学した。開学から6年近くが経過した日越大学は、建学の目標「アジアを変える、世界に挑む」のもと、8つの修士課程プログラムと2つの学士課程プログラムを開校し、サステイナビリティーサイエンスの領域においてアジアでトップクラスの研究志向大学への道を歩んでいる。

ベトナムの国造りを担う高度人材・リーダー育成を目指し、リベラルアーツ（教養教育）を通じた学際的な課題解決能力と先端

技術の修得も重視している。今後さらなる進化に向けてプログラムの増設や新キャンパスを整備する計画が進んでいる。

今年4月に独立行政法人国際協力機構（JICA）より公益財団法人東亜総研が受託した日越大学の国内支援事業の一環として、日越大学支援国内本部（代表・武部勤日越友好議員連盟特別顧問）の活動が開始された。

各種構想の実現に向けて日越大学はもとより、日越大学推進議員懇話会（二階俊博最高顧問）、日越大学構想の推進に関する関係者庁会議（内閣官房）、及び日越大学連携校連絡会（国内28大学・NPQ1法人加盟）と連携し、産学官連携の促進と広報活動にあたっている。これら取り組みを通して日越大学の発展のみならず、アジアの平和と繁栄を念頭にいた日本のアジア外交の拠点たる日越大学の基盤づくりにも力を注いでいる。

今後、日越両国の広範な戦略的パートナーシップにより、日越大学はアジアのプラットフォームとしての可能性を限りなく広げいでくだろう。

メール▶ 1rt3d3-vju@jica.go.jp (日越大学支援国内本部) info@vju.ac.vn (総合案内) admission@vju.ac.vn (入学関連)

ホームページ▶ <http://vju.ac.vn/en>

フェイスブック▶ <https://www.facebook.com/VJUjp>

HP

Facebook

修士課程、日本の大学が支援



日越大学

3 学長紙上座談会



筑波大学 University of Tsukuba

茨城大学 Ibaraki University

(日越大学修士課程プログラム幹事校)

日越大学 古田元夫 学長



ふるた・もとお 1949年生まれ。東京大大学院社会学研究科国際関係論専門課程修士課程修了。東京大名誉教授。東京大教養学部長、副学長、東京大附属図書館長などを経て、2016年から現職。

茨城との関係発展を

幹事校の役割

「幹事校を務める筑波大と茨城大の役割や実績などをお聞かせください。」

古田 日越大学には、教育プログラム（専攻に相当）ごとに、その実施に必要な教員の派遣などに

未来への期待

「永田学長と太田学長は、日越大学の未来や留学生の交流についてどんな期待を抱いていますか。」

永田 日越大学は科学技術都市と位置付けられるホアランクを3年後に移転します。つくば研究学園都市における本学が担ってきた役割が期待されています。学生は、日越大学において、最先端科学技術を学び、社会実装の力を学び、それを体現する研究を通して学位を取得します。

日越大学では、学士課程や修士課程でもコースの増設が計画されています。博士課程への進学を目的に日本の大学に留学する卒業

茨城大学 太田寛行 学長



おおた・ひろゆき 1954年生まれ。東北大大学院農学研究科博士後期課程修了。農学博士。専門分野は土壌肥科学、微生物生態学。茨城大農学部教授、農学部部長、副学長などを歴任し、2020年から現職。

持続的な連携を進める

ベトナムとの関わり

「古田学長、ベトナムとの関わりや学長就任の経緯を教えてください。」

古田 私が大學生だったのは、ベトナム戦争が激しく展開されて

いた時期で、ベトナムに強い関心を持ち、その現代史や社会を研究したいと思うようになりました。1974年からならび、ベトナムを訪れるようになり、大学や研究機関と、強い結び付きを持つようになりました。

日越大学が設置されることなるベトナム国家大学ハノイ校の執行部とは、私が東京大学の副学長

論に参加いただきました。その後、学長に就任され、筑波大学には公共政策の幹事校をお引き受けいただくことになりました。今年の3月に発足した日越大連携校連絡会という組織の会長もしていただいております。

日越大学は、サステイナビリティーを看板に掲げていますが、茨城大学は、この分野の先端的な研究が行われています。前の学長の三村信男先生が、気候変動の日本を代表する研究者であられることもあり、この分野の幹事校をお引きすることになりました。

永田 筑波大学は現在、公共政策プログラムの運営を担っており、本学教員が中心となり、講義、修士論文指導を行い、これまでに50名を超える修士を輩出し、財務省をはじめとした官庁や政府系コンサルタントのほか、多様な職に就いています。

日越大学ではインターンシップ

を引き続き日越大とのパートナーシップを究めていきたいですね。最後に古田学長、日越大学の未来や茨城県との関わりについて

筑波大学 永田恭介 学長



ながた・きょうすけ 1953年生まれ。東京大大学院薬学研究所博士課程修了。薬学博士。専門分野は分子生物学。東京工業大生命理工学部助教授、筑波大基礎医学系教授などを歴任し、2013年から現職。

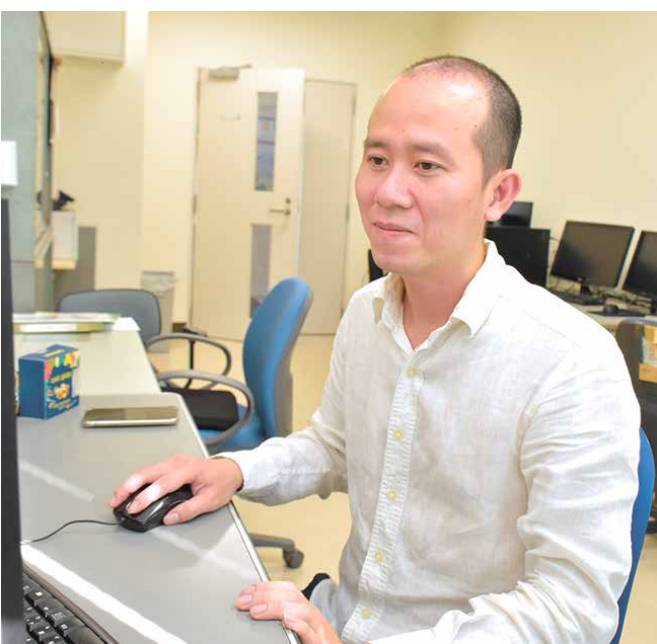
学生の交流双方向に

お聞かせください。

古田 日越大学は、アジア有数の研究大学になることを目指しつつ、ベトナムと日本の将来の関係

修了生紹介

一念発起、気候研究の道へ



茨城大大学院で学ぶドゥ・ズイ・トゥンさん(34)

「いまは雨期で海から風が来ているので、天気は比較的良好だと思います。6月下旬、茨城大学水戸キャンパス（水戸市文京）内の大学院研究室で、マウスを片手にパソコンの画面をじっと眺める男性。母国のベトナムから送信される大気汚染状況などのデータを精査してい

た。男性はドゥ・ズイ・トゥンさん。日越大学では、茨城大が幹事校を務める修士課程「気候変動・開発プログラム」の1期生として学び、修了した。

日本大使館の推薦で、国費留学生として茨城大大学院の博士後

期課程に進学。コロナ禍による入国制限の影響で半年遅れの3月末に来日し、首都ハノイの大気中のすす濃度、発生源、気候への影響などを研究する。

「大気汚染で自分の健康にも影響が出るかもしれない。経済だけでなく、環境のための対策が必要だ」

現地は、微小粒子状物質「PM2.5」などによる汚染が常態化。開発途上国の経済発展の買値のため設立されたアジア開発銀行の職員から、一念発起して研究の道へ進んだ。

日越大在学時、インターンシップで本県を訪れていた。2019年10月の台風19号の水害があった直後で、ボランティアも経験。その際、同じく水害が多ベトナムと比較し、強く印象に残ったという。

「日本人のコミュニティーは強いと感じた。助け合い、普段の生活に戻る対応ができています」

企業などを訪れてもらいました。19年の来日時は台風被害で直面しましたが、彼らからの申し出を受け、浸水した家屋などのボランティアに参加してもらいました。その際にボランティアセンターの仕組みに感銘を受けたことで、ベトナムでも参考にしたいと語っていたのが印象的でした。

また、私自身も農産部の教員として東南アジアの大学との連携・交流を担う中で、ベトナムにも行きました。いつ訪れも人々の活気と勢いには圧倒されます



日本語教育プログラム（JLE）授業風景

を担う人材を養成していきたいと考えています。円借款で、6千人規模の学生を養成する、格別なキャンパスを建設する計画もあります。

茨城県は、ベトナムとの交流が盛んな県で、先日班された下山田虎之介前会長が健康衰き、山口やち系現会長の下で発起を続けている日本ベトナム友好協会の県連合会もあります。さらに、関影商事など、日越大学への設立当初から関心を寄せ、支援したいという企業もあります。

こうした茨城県に、日越大学の幹事大学が3つ存在していることは、偶然ではありません。今後、日越大学と県界の関係が発展することを期待しております。

互いに支え、災害から立ち直ろうとする人々の姿が心に響いた。気候変動の研究に関わる発書の予測や予防にとまらず、発災後にどう日常を取り戻すが大切という「日本の取り組み方を学びたい」と語る。

「教育担当者がサポートしてくれて、くじけずに日本に来られた。来日待った間、茨城大学はオンラインの授業やアドバイスのサポート。現在は院生のチューター」が付けて日越大学での面会でサポートを受け、大学の援助体制に感謝する。

指導を担う北和之理工学研究科教授（58）は、能力が高く、学問に真面目に向き合っていると評価。「日越大から茨城大に進学した1期生として新たな道を開き、日越の架け橋になってほしい」と期待を寄せた。

「ベトナムで大学の講師になり、学んだことを若い人に伝えたい。気候変動の問題について解決法を見だし、社会に貢献したい」。母国の未来を背負う表情は、りりしかった。